

第 20 回テーマ

今こそ企業経営者の出番

先日、あるオーナーと商談をしている最中に「テレビで若者の雇用をテーマにした番組を見たけれど、今は本当に大変な状況だね」という話題が出た。偶然にも私も同じ番組を見ていたので会話も盛り上がったのだが、職業に対する「考え方」が時代とともに変化しているというのを痛切に感じた事を伝えた。まさに「就きたい職に固執していく」か、それとも「就ける職を選択し、そこから未来を切り拓いていく」か、といった感じだろうか。

以前にも書いたが「職」については決して新卒だけの問題ではない。中堅となっている 30 代、業績責任が一層重くなっている 40 代、セカンドライフを描けず苦悩する 50 代...といった所であろうか。つまり全ての年代で「職」に関する事、日本の将来の事を憂い、悩んでいると言って良い。「過去の成功要因に縛られないで」と伝えても、日本的商慣行の中で進んできたスタイルを早々簡単に変更する事はできない。時間のかかる話でもある。もちろん政治に対する不信・不満を持っている人も多い事だろう。「なぜ？ どうして？」の連続は、生活をより不安視させる。夢も目標も持てなくなるようでは、日本は本当に終わってしまうのではなかろうか？

私見だが、優先順位として、まず金融政策や雇用環境整備といった中長期視点を見据えた政策に取り組んでもらいたい所だ。その為の規制緩和を含めた政策決定、補助金や助成金などの実効性向上など、課題は山積みだと思う。第 2 に産業育成だ。特に起業を促進するような法整備、環境整備の他、ベンチャースピリットをあげられるような支援策が求められる所だ。現在でも金融政策を中心にかなり整備されているが、実際のところはその要件を満たすハードルが高く、多くの人がメリットを享受できていない。基準引き下げや緩和策なども求められている所であろう。第 3 に企業経営者の意識革新だ。今は何より強烈なリーダーシップが必要だ。独裁的なリーダーシップスタイルでもいい、夢や希望を描ける大きな白いキャンパスを用意してあげる事...希望を見せていくという事だ。大変力のいる作業であるし、自らのモチベーションを上げて継続するには相当な精神力の忍耐力が必要となるからだ。簡単ではない。簡単ではないからこそ、誰かが立ち上がらねばならないと思う。今こそ企業経営者の出番であろう。

夢の持てない時代で、ウルトラ C もない。厳しさもまだまだ継続するだろう。でも決してあきらめてはいけない。下を向いても何も変わらないからだ。考える事は「勇気と強い力」を与えてくれるはず...そう信じて歩を止めないで欲しいと思う。